

富士フイルムホールディングス株式会社
2023 年 3 月期第 2 四半期 決算説明会
主な質疑応答

Q: 第 2 四半期実績について、社内計画に対する遂行状況を教えてください。

A: 売上は社内計画に対して 200 億円以上の過達であり、全セグメントで計画を達成した。

営業利益について、US ドルに対する円安がネガティブとなるビジネスイノベーションは未達であったが、それ以外のセグメントは社内計画を達成した。特にイメージングでは INSTAX が牽引し、大幅な過達となった。従来の製品群に加え、「INSTAX mini Link2」などのスマホプリンターが若年層を中心に好評を得ており、プリント枚数の増加にもつながっている。INSTAX の人気は一過性のトレンドとみられることもあるが、販売は好調を維持している。アナログとデジタルの融合を進めることで、今後もさらにビジネスを成長させていく。

Q: メディカルシステムについて、ロックダウンの影響を含め中国での販売状況はどうだったか？

A: 中国での販売状況について、第 1 四半期はロックダウンによるマイナス影響があったものの、第 2 四半期で挽回しており、上期累計の売上は前年並みに回復した。それ以外の地域では、内視鏡、医療 IT、体外診断(IVD)、超音波等の分野を中心に好調であり、メディカルシステム全体では為替影響を除いても対前年で増収・増益となった。

Q: バイオ CDMO が第 1 四半期と比較して、大幅増収になった理由は？

A: 抗体医薬品の製造受託については引き続き大きな需要があり、デンマーク拠点がほぼフル稼働で順調に推移している。また、ワクチン原薬製造に関するキャンセルフィー収入を計上したことも寄与し、第 2 四半期は大幅増収となった。

以上